

〈事業継続〉

前月に続き「大廃業時代の足音」中、「後継者未定」の「五社」日経新聞10月6日朝刊1面に記事が載っていました。「中小企業
の廃業が増えている。後継者難から会社をたたむケースが多く、廃
業する会社のおよそ5割が経常黒字という異様な状況だ。2025
年に6割以上の経営者が70歳を超える」として「あの痛くない注射
針で有名な岡野工業もあと2年くらいで会社をたたもうと思
っているんだ。」と掲載されていました。驚きです。廃業の5割
が黒字企業、利益がでて良い企業が廃業では、経済にとっ
てはマイナスであり、日本の技術力の継承が出来なくなります。経営者
にとって将来の不安があるために赤字になる前にやめよう、わからな
いではありませんが。債務超過で赤字の企業は、借金があります
ので、返済のメドが立ちませんから、自己破産でもしない限り
廃業できません。赤字企業は、技術力がなかったり、何か問題が
あるために利益ができません。技術力がある後継者のない廃
業予定の企業とうまく結びつきができれば、何か活路が
みえる長がします。国も結びつきの援助をして頂ければと思います。
赤字企業が倒産では、社会にとって大きな損害がでるだけです。
赤字企業の改善を国の助成で色々やっていますが、殆どの企業
は、なかなか改善が進んでいないと感じています。M&Aが黒字
企業と黒字企業の結びつきではなく、黒字廃業予定企業と後
継者がいる赤字企業と結びつける。優遇規程も設けて。赤字企業
は、他から新しいものを注入しなければ改善できない長がします。
内部に問題があるから赤字になります。人口減ですので企業数
も減って当然だと思えますし、減るもの当然だと思えますが、技術
力、商品力の継承は必要であり、社会の損失となり得る赤字企業対策
雇用維持もできるのではと思います。

高林 幸裕